




まちなか コウハウジング

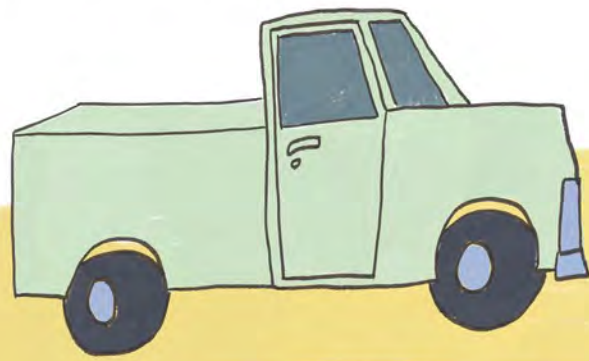
An illustration of a house with a yellow wall and two windows. A sign on a post in the foreground reads 'さくらの家' (Sakura no Ie). A girl in a red dress and a boy in a yellow shirt are walking through a field of tall grass and dandelions. The sky is blue with stylized green trees at the top.

一軒の空き家のまえを
近所に住むミナちゃんとコウくんが
通りかかりました。

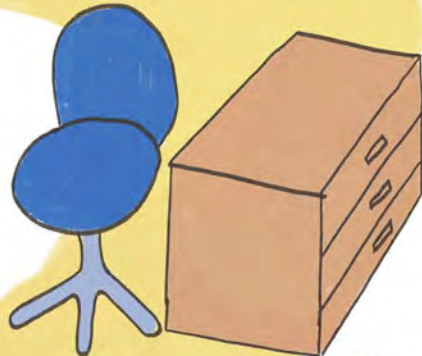
「さくらさん、足が悪くなって
このうちに住めなくなったんだって。
お庭の草が ぼうぼうになっちゃったね」

「ちょっとさみしいね。
でも今度みんなでおうちとお庭を
片付けるって、言ってたよ」

どうやら さくらさんの おうちに
“おかたづけ隊”が やってくるようです。



さくらさんの家におおぜいの人やってきました。



「次はタンス
お願いしますー」



「たくさん荷物があったんだね」



「こちらの食器はここで使うので
置いたままにしてください」

「はい、了解！」
お兄さんの大きな声がします。

草木におおわれていた家が
すっきりしてふたたび
見えるようになりました。

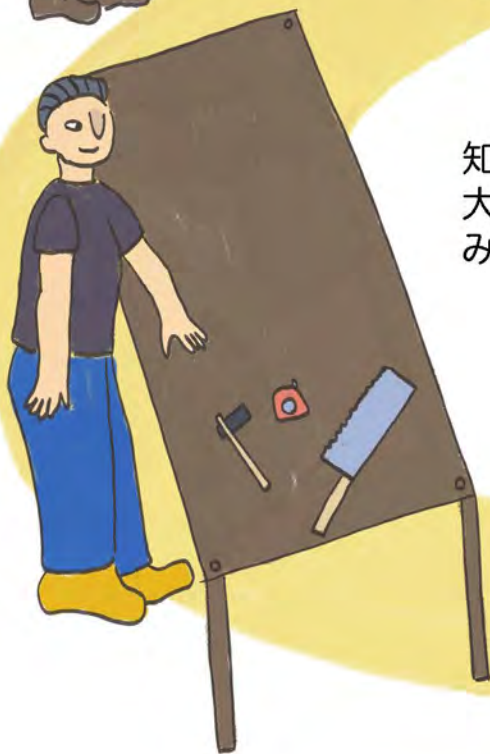


今日は おうちとお庭を リフォームします



お庭に花壇をつくり
花を植えます。

知り合いの
大工さんもやってきて
みんなの作業を見守ります。



「ここは“さくらハウス”に
なるんだって！」

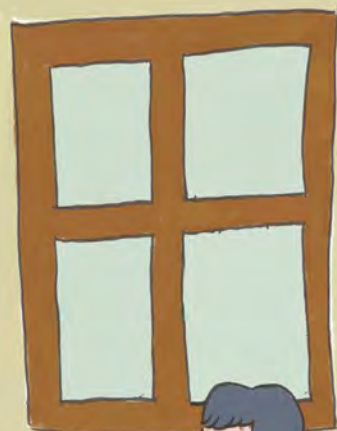
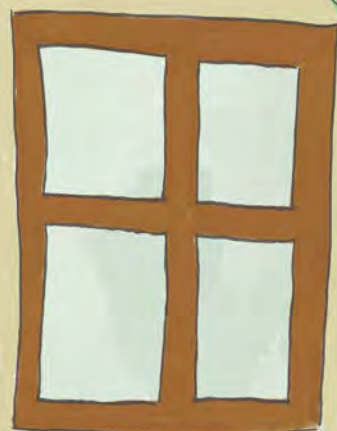


お兄さんは壁を塗ります。
コウくんも一緒に挑戦します。

「あっ、ここに駄菓子屋さんが
できるの?」とコウくん。

「そうだよ
友だちさそってあそびにきてね」

「うん、ぜったい来る！」



「わあ、いいにおい！」

今日は“さくらハウス”の
オープンデー。

お庭では
みんなで作った特製カレーが
配られています。

お兄さんや近所のおじさんも
みんな大活躍です。



さくら
ハウス



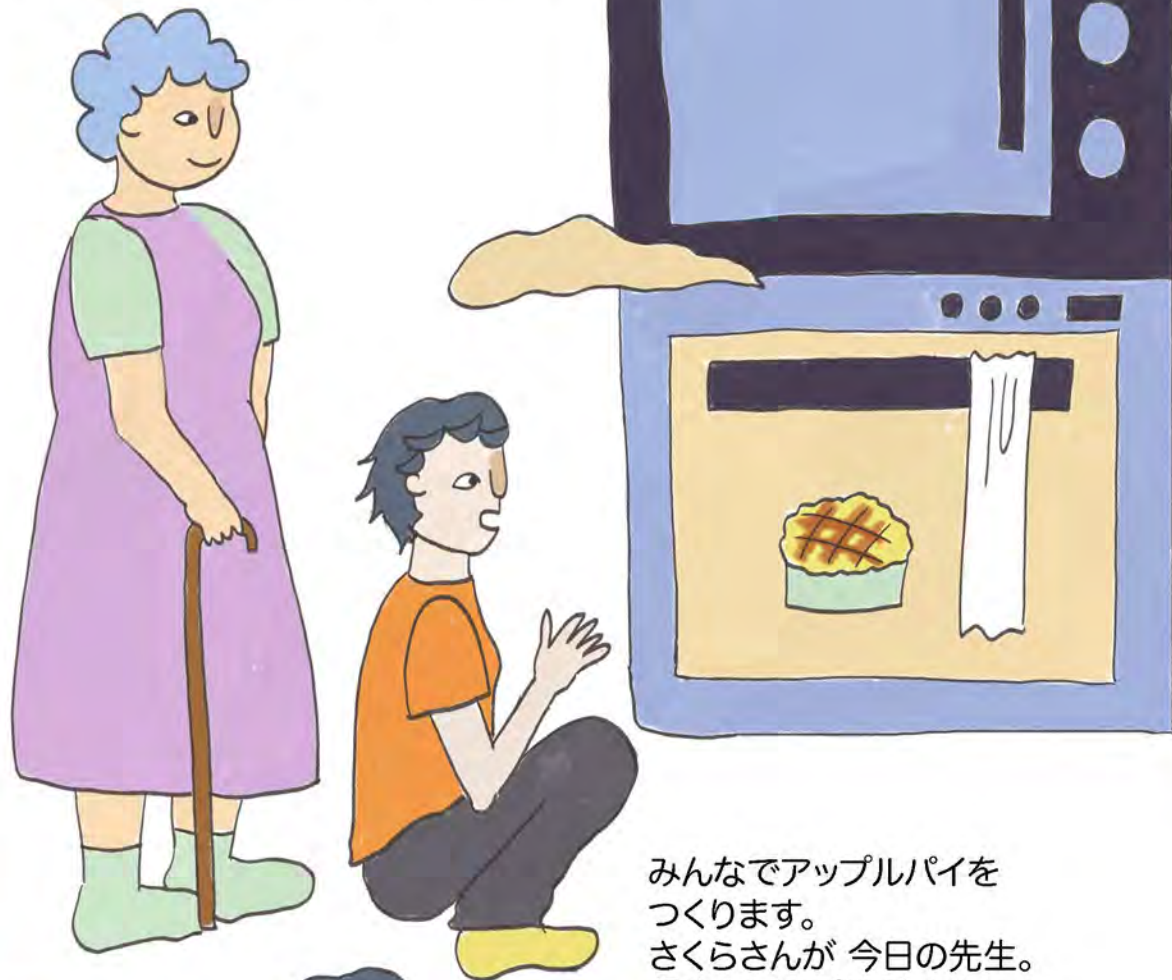
えんがわには、
なつかしい駄菓子も
並びました。



「どれにしようかな？」
子どもたちの元気な声が
さくらハウスに響きます。

オーナーのさくらさんも
その様子を優しく見守っています。
「ずっと空いていた家が、こんなに
にぎやかになるなんて…」





みんなでアップルパイをつくります。
さくらさんが今日の先生。
得意なアップルパイを
みんなと一緒に焼きます。

さくらさんのおうちにあった
お父さん愛用のいす
お母さんの思い出の食器
大切にしていたピアノ…
また“さくらハウス”で
みんなに使ってもらえて
どこかうれしそうに見えます。

「ほ～ら焼けた。焼きたてだからゆっくり食べましょうね」
「うわあ、パリパリ!」「あちっ、うまっ!」
「やっぱり焼きたては違いますね」
「ほんとおいしい!」

あちこちから声が上がります。
お菓子づくりは大人気。
さくらさんもにこにこ
うれしそう。



「さくらさん、本当ににぎやかですね。
うちのアパートも
こんな風にならないかな」

「お手伝いしますよ」
とお兄さん。
お兄さんは“さくらハウス”の
運営を任されてるスタッフの一人です。

「今度相談に行きますね」



さくらさんの「さくらハウス」は 地域の「コモンハウス」になりました

お菓子づくりに参加して アップルパイに舌鼓を打っていた親子は
近くにある古いアパート「青葉荘」のオーナーとその娘さんです。
「あの… わたしたちのアパートも
あんなふうに 楽しく活用できるでしょうか？」

お父さんが少し照れくさそうに、お兄さんにたずねました。

「この辺りは空き部屋が増えて
この先どうしたらいいか 悩んでいたんです」
となりで娘さんも深くうなずきます。



お兄さんは 話を聞き、笑顔で答えました。

「私たちのスタッフにはいろいろな専門家がいます。
みんなでアイデアを出し合えば、きっと素敵な場所になりますよ」



こうして、まちの中に
新しい「コモンハウス」をつくる計画が
また一つ動き出しました。

となりに公園がある青葉荘は
子どもも大人も
集まりやすく
にぎやかになりそうです。

古いアパートは
どんなふうに
変わるのでしょうか。

“青葉荘”から“あおばハウス”へ

「トントン」「ギコギコ」
青葉荘の再生が始まりました。

1階は、みんながくつろげるカフェと工作室
そしてミニギャラリーをつくります。

2階の部屋は、仕事や趣味に集中できるミニアトリエと
ライブラリーにつくり変えます。

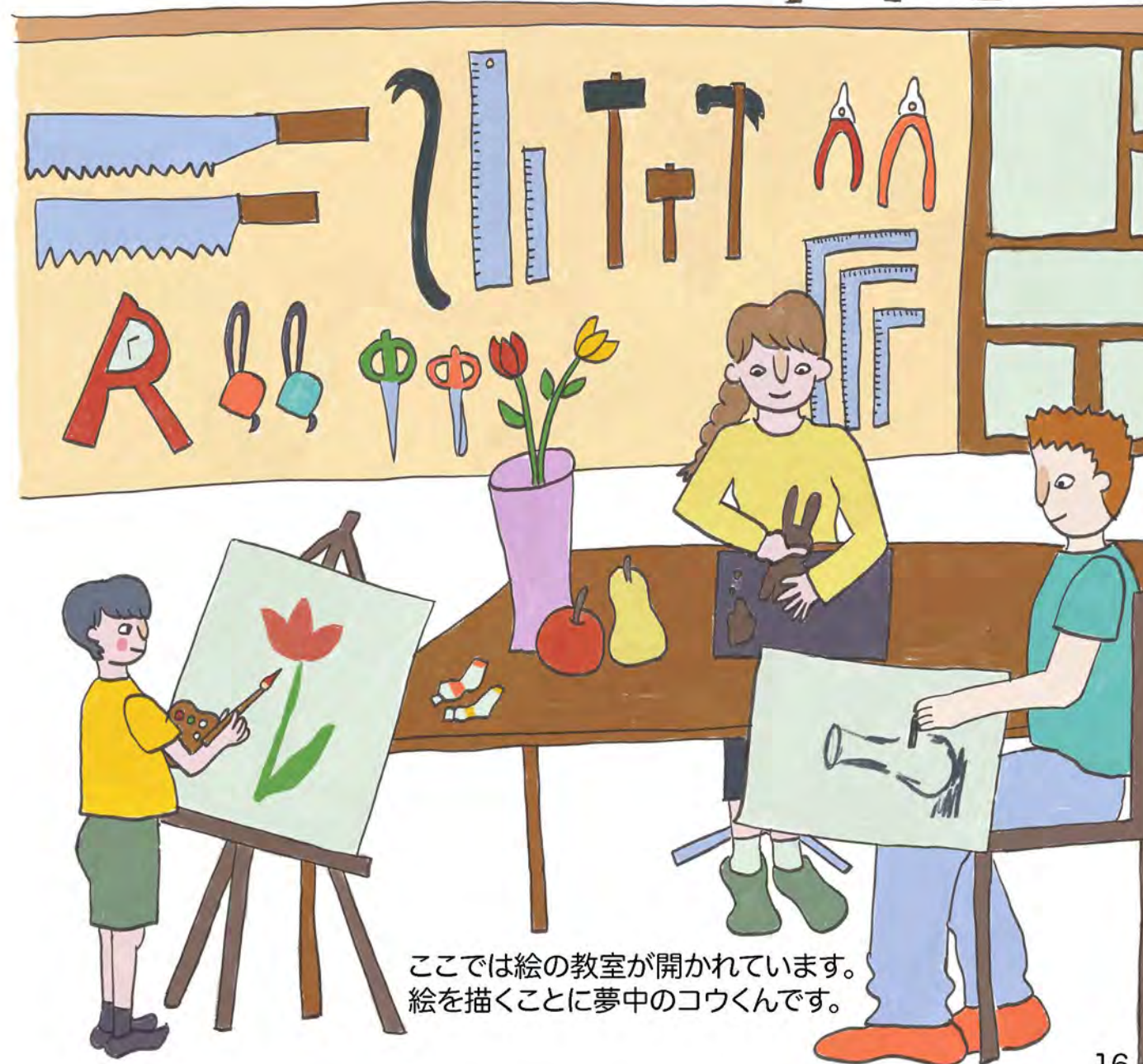
職人さんの教えを受けながら
使う人がそれぞれのスペースを作っていきます。

「自分たちの手で作ると、愛着がわいてくるね」

みんなの力で、古いアパートが少しずつ息を吹き返していきます。



工具が使いやすく並んだ
みんなの工作室と
作品を置きっぱなしでも怒られない
自分だけのミニアトリエは
狭くても集中できる
それぞれの居場所になりました。



ここでは絵の教室が開かれています。
絵を描くことに夢中のコウくんです。

コウくんは 思いっきりリラックスして本を読める
“あおばライブラリー”も お気に入り。



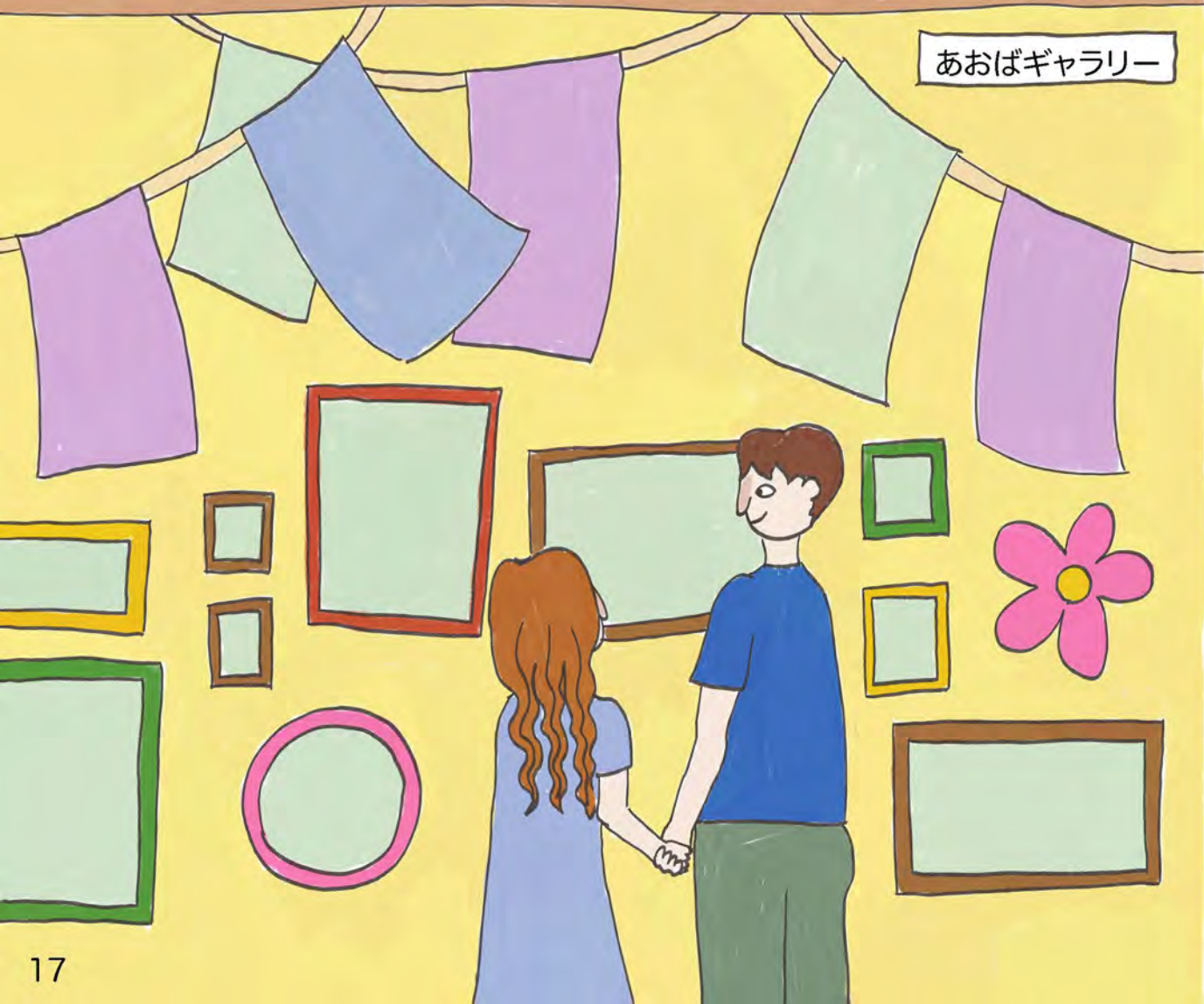
“あおばギャラリー”では
コウくんたちが、教室で描いた絵が飾られることや
2階のアトリエで、デザイナーや作家が制作した作品の
展示会を行うこともあります。

こちらは、お姉さんが始めた“あおばカフェ”

ミナちゃんとお姉さんは
さくらハウスのお菓子づくりで友達になりました。

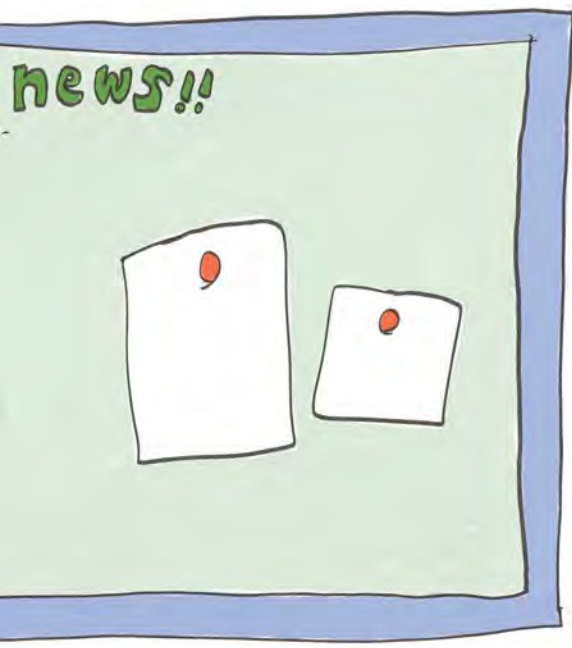
今日は、新しいカフェに招待されて
おいしいケーキを前に、ミナちゃんはお機嫌です。

これからこのカフェで
お姉さんのお友達から編み物を教わります。



あおばカフェ





地域に広がる「コモンハウス」

しばらくして、
学校の近くにできたのは
“てらこやハウス”です。

勉強や作業のスペースとして
子どもも大人も利用することができます。

学校に行けない子どものための教室が
開かれることもあります。



“てらこや文庫”には
本好きのオーナーが集めた世界中の本が並びます。

家ではやる気が出ないけれど
ここへ来たら、勉強スイッチオン。

ミナちゃんやコウくんも、学校帰りに立ち寄ります。



さらにもう一軒
少し歩いた場所にある空き家は
“けんこうハウス”として
生まれ変わりました。

“あおばハウス”のお父さんも
毎週ここで体操をするのを
たのしみにしています。



“ベビーマッサージ教室”の日には
たくさんの赤ちゃんとママが訪れます。
子育てのちょっとした悩みも
相談すると、気持ちが明るくなります。

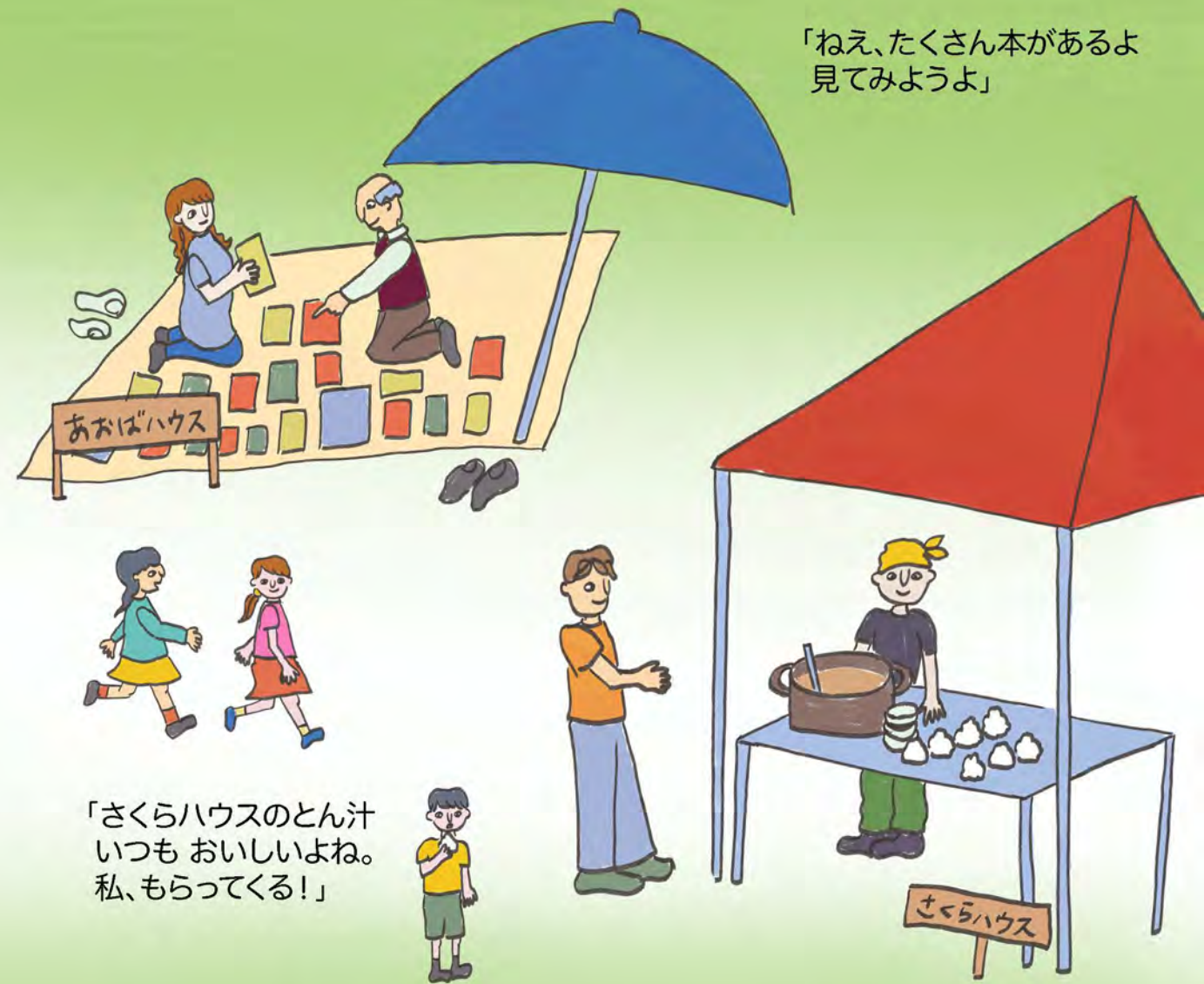


ひろがる「まちなかコウハウジング」

今日は、この地域のコモンハウスがみんな集まるお祭りです。



「ねえ、たくさん本があるよ見てみようよ」



「さくらハウスのとん汁
いつもおいしいよね。
私、もらってくる！」

さくらハウスでは、災害時の料理教室と炊き出しを行っています。
あおばハウスは、隣の公園も使って、煙体験や消火器トライアル
そして恒例の流しそうめん。
てらこやハウスやけんこうハウスからも、大勢が参加して大にぎわいです。

「私は体操を教えてもらおうかしら」
さくらさんも、おひさまの下での“けんこう体操”に挑戦。

みんなのにぎやかな声がひびきます。

毎年、公園で開かれるこのお祭りでお互いに出会い、つながりが生まれ
まちなかにワクワクが広がっていきます。

あなたのまちにも、空き家が眠っていませんか。

一軒の空き家がみんなのコモンハウスになり
一つ、また一つとつながって
家が、人が、そして地域が、生き生きとよみがえる
「まちなかコウハウジング」をつくっていきませんか。

国土交通省 令和7年度空き家対策モデル事業
空き家を活用した「まちなかコウハウジング」

制作：特定非営利活動法人コウハウジング・パートナーズ
<https://cohousing.jp>

絵：あいば れんか

発行年月：2026年3月